

2749 福岡県立鞍手高等学校

SGH課 松本 邦明

本日の説明

1. 構想概要
2. 研究開発の実践・高大接続
3. 成果普及
4. 今後について

1. 構想概要について

研究開発構想名

筑豊から世界へ！

グローバルシティズンシップを持った

「たくまשיき前進者」の育成

- ① グローカルな視点で課題解決に取り組む人材の育成
- ② 多方面と連携した課題研究の推進
- ③ グローバル人材に必要な能力の育成と評価に関する研究

2. 研究開発の実践・高大接続

(1) 教育課程と時間割上の工夫

火曜日	6限	2年生人間文科コース課題研究 (SGH)
火曜日	7限	2・3年生課題研究 (SGH・SSH)
木曜日	7限	1・2年生理数科課題研究 (SSH)
金曜日	6限	1年生現代社会探究 (SGH)

すべての教員が課題研究に関わる

2. 研究開発の実践・高大接続

(2) 教科間の連携

英語イマージョン授業の実施

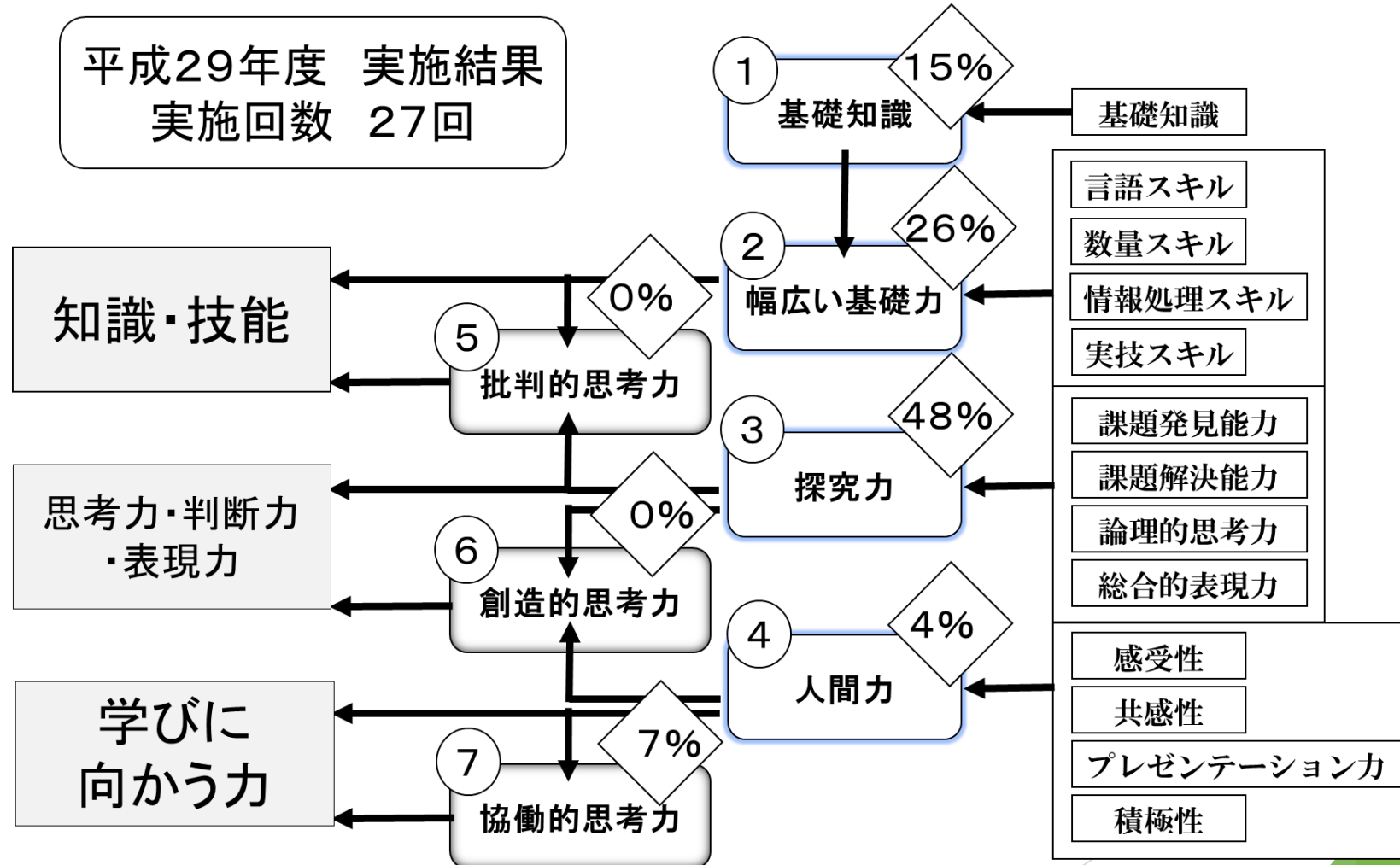
生徒が母語で獲得した教科科目の知識・技能を活用して、新しい内容について英語で理解・表現することで、当該教科・科目の目標を達成する。

【昨年度実施例】

- ・ 国語 百人一首を英語で表現し、日本語の表現と比較する
- ・ 理科 クリーンエネルギーに関する学習
- ・ 地歴 ルネサンスやジャポニズムについて、西洋と日本の文化の比較
- ・ 公民 ヨーロッパの陪審員制度と日本の裁判員制度
- ・ 課題研究 イギリスのフットパス

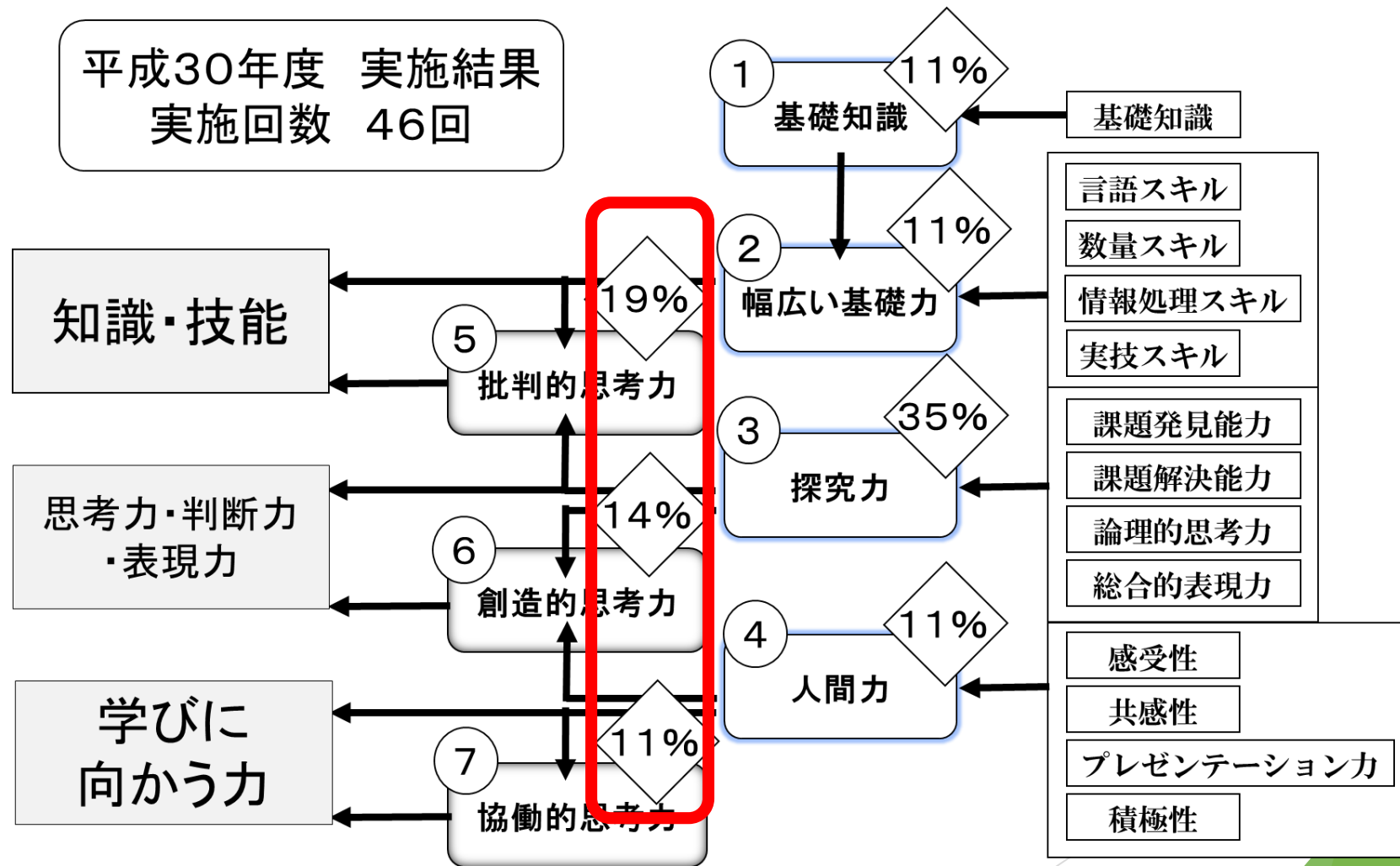
2. 研究開発の実践・高大接続

(3) 各教科における授業改善



2. 研究開発の実践・高大接続

(3) 各教科における授業改善



2. 研究開発の実践・高大接続

(4) 課題研究の指導の工夫

1年次

- ・ 学校設定教科「現代社会探究」（3単位）

大学教授の専門講義＋筑豊地域に関する調査活動＋プレゼンテーション

専門講義

- ・ 北九州市立大学 廣川先生「コミュニケーション」
- ・ 福岡県立大学 佐野先生「情報収集と分析」
- ・ 福岡工業大学 中野先生「プレゼンテーション」
- ・ 福岡女子大学 野依先生「筑豊の労働と歴史」
- ・ 東北大学 藤原先生「日本・筑豊のエネルギー問題」

2. 研究開発の実践・高大接続

(4) 課題研究の指導の工夫

2年次

グループによる研究＋報告書＋プレゼンテーション

平成27～30年度

- ビジネスプラン班
- フットパス班
- シンガポール班
- マレーシア班

令和元年度


- スポーツ研究
- 英語、英文学研究
- 日本語、日本文学研究
- 歴史研究

連携大学教授

- 北九州市立大学（2名）
- 九州大学（1名）
- 京都大学（2名）

2. 研究開発の実践・高大接続

(4) 課題研究の指導の工夫

		日時	平成	年	月	日()	限	実施場所				
		○本時の活動目的○ (※簡潔に書くこと)										
<table border="1"><tr><td>年</td><td>組</td><td>番</td><td>氏名</td></tr></table>		年	組	番	氏名	活動メモ						
		年	組	番	氏名							
		●本時の成果 (※簡潔に書くこと)										
●次回への検討事項 (※簡潔に書くこと)												
		自己評価 (どれかに○)										
積極性	グループ内の自己の役割を理解し、自主的に考え行動し、研究活動に参加している。						1・2・3・4・5					
協調性	グループ内で協力し合いながら、研究活動を行っている。						1・2・3・4・5					

個人で思考する
場面を取り入れて
創造的思考力を
向上させ、
グループ研究で
協働的思考力を
向上させる。

2. 研究開発の実践・高大接続

(5) 成果、課題に関するエビデンスの収集方法

SGHアンケート結果(一部抜粋)

	(内)は総数	コミュニケーション力							課題発見力						計画遂行力				自己管理能力			市民力		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
実践活動力	2年全(117)	3.3	3.5	3.7	3.6	3.1	3.5	3.3	3.1	3.3	3.2	3.2	3.2	3.4	3.2	3.5	3.4	4.0	3.2	3.7	3.3	3.1	3.7	3.7
	1年全(200)	3.3	3.5	3.7	3.6	3.2	3.5	3.3	2.9	3.2	3.3	3.1	3.0	3.2	3.1	3.4	3.4	3.8	3.1	3.6	3.3	3.2	3.7	3.7
	2年人(41)	3.5	3.5	3.8	3.7	3.1	3.5	3.4	3.2	3.3	3.4	3.2	3.2	3.4	3.6	3.6	3.6	4.1	3.5	3.9	3.4	3.3	3.7	3.7
	2年普(76)	3.1	3.4	3.7	3.6	3.0	3.4	3.2	3.0	3.2	3.1	3.1	3.2	3.3	2.9	3.4	3.3	4.0	2.9	3.5	3.3	3.1	3.7	3.6
	1年人口(50)	3.2	3.5	3.7	3.6	3.0	3.5	3.2	2.9	3.4	3.2	3.1	3.1	3.2	3.0	3.4	3.1	3.8	3.0	3.4	3.1	2.9	3.6	3.5
	1年資源(50)	3.5	3.5	3.7	3.6	3.3	3.6	3.4	3.0	3.3	3.4	3.2	3.1	3.2	3.2	3.4	3.5	3.9	3.1	3.5	3.4	3.2	3.8	3.9
	1年労働(50)	3.4	3.6	3.7	3.6	3.2	3.5	3.3	2.9	3.1	3.3	3.1	2.9	3.2	3.0	3.3	3.3	3.7	3.2	3.6	3.3	3.3	3.7	3.5
	1年地域(50)	3.2	3.6	3.8	3.8	3.1	3.4	3.3	2.9	3.2	3.3	3.1	2.9	3.1	3.2	3.5	3.5	4.0	3.0	3.7	3.4	3.3	3.8	3.8

	(内)は総数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		2年全(117)	15%	9%	13%	12%	15%	9%
1年全(200)	18%	13%	12%	12%	8%	6%	32%	
2年人(41)	18%	9%	16%	12%	12%	13%	20%	
2年普(76)	13%	10%	12%	12%	17%	8%	29%	
1年人口(50)	16%	16%	9%	16%	7%	6%	29%	
1年資源(50)	20%	16%	13%	5%	7%	4%	35%	
1年労働(50)	16%	12%	12%	9%	11%	6%	33%	
1年地域(50)	18%	8%	15%	16%	6%	6%	31%	

【リフレクションアンケート】Q16-2 課題研究を通して特に向上したと思う能力を選択してください。

- ①基礎知識
- ②幅広い基礎力
- ③探究力
- ④人間力
- ⑤批判的思考力
- ⑥創造的思考力
- ⑦協働的思考力

	(内)は総数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
		2年全(117)	57	58	50	41	65	56	14	47	51	9	16	2
1年全(200)	107	114	89	109	122	120	38	89	123	5	18	7	1	
2年人(41)	24	29	22	21	25	25	9	12	13	3	4	1	1	
2年普(76)	33	29	28	20	40	31	5	35	38	6	12	1	1	
1年人口(50)	25	29	18	30	32	28	10	24	35	0	2	3	0	
1年資源(50)	24	30	19	25	31	30	8	15	23	2	5	2	1	
1年労働(50)	30	26	29	24	34	37	11	14	32	1	7	1	0	
1年地域(50)	28	29	23	30	25	25	9	36	33	2	4	1	0	


【ポストアンケート】研究を終えて感じたこと(複数回答可)

- 1 コミュニケーションの高まりを感じた
- 2 表現力の高まりを感じた
- 3 論理的思考力や判断力、理解力の高まりを感じた
- 4 情報機器の操作に関する技術の向上を感じた
- 5 他者と関わる楽しさを感じた
- 6 クラスメイトの新たな一面を見た
- 7 他教科とのつながり、応用の可能性を感じた
- 8 地域の良さや魅力を感じた
- 9 地域課題の深刻さを感じた
- 10 受験勉強の妨げになると感じた
- 11 部活動の時間の妨げになると感じた
- 12 調べるだけに終わった
- 13 何も感じなかった

3. 成果普及について

①文化祭成果発表会

6月7日（金）

- ・すべての課題研究班によるブース発表
- ・代表班によるステージ発表
- ・学校向け事業説明会の実施 

6月8日（土）地域の中学校等に案内

- ・代表班によるステージ発表
- ・海外研修報告会

【今年度参加校】

- ・福岡県立嘉穂高校
- ・福岡県立八幡高校
- ・福岡県立ひびき高校
- ・福岡県立小倉高校
- ・福岡県立戸畑工業高校
- ・福岡県立城南高校
- ・福岡県立香住丘高校
- ・福岡県立八女高校
- ・福岡県立直方高校
- ・鹿児島県立鹿児島中央高校

3. 成果普及について

②授業公開

2学期（11月）実施予定

課題研究に必要な能力をいかにして育むか
キーワード「越境の説明力」養成

- ・ 課題研究と教科の横断
- ・ 英語イマージョン授業
- ・ 課題研究の実践などを公開

3. 成果普及について

③学会での発表

日本教育心理学会

9月14日（土）～16日（日）

- ・ 連携大学教授との連名発表

「越境の説明力」育成を目的としたプレゼンテーション・セミナーの効果
スーパーグローバルハイスクールにおける生徒の学びの指標開発

3. 成果普及について

④行政との連携

直方市商工観光課主催「直方わくわーく」
市内産業の魅力を市民および市外へ発信

- ・ ビジネスプラン班の研究の展示
- ・ 地元企業や市民に向けての研究発表

3. 成果普及について

⑤自治体との連携

直方市植木地区の活性化に向けて

フットパス研究班による地域へのコース提案

- ・コースの提案
- ・大学と連携したフットパス体験ツアーの実施
- ・外国人のフットパス体験ツアーの実施

4. 今後に向けて

① 課題研究の取組

H27～30までの2年生課題研究

- ・ 東南アジア研究（人間文科コース）
- ・ ビジネスプラン班 ・ フットパス班

H31（R1）～

- ・ 東南アジア研究（人間文科コース）
- ・ ビジネスプラン班 ・ フットパス班 ・ 英語探究
- ・ スポーツ科学探究 ・ 歴史探究 ・ 文学探究

教員の専門性をより活かし、生徒の選択の幅を広げる

4. 今後に向けて

②大学との連携

現在の連携大学教授

【県内】・九州大学 1 名・北九州市立大学 3 名・福岡県立大学 2 名
・福岡工業大学 1 名・九州産業大学 2 名

【県外】・京都大学 2 名・東北大学 1 名

- ・ 時間数や回数を減らして連携予定
- ・ 遠隔授業についても検討
- ・ 謝金については進路費、研修費を当てる

4. 今後に向けて

③海外研修

人間文科コース海外研修（シンガポール・マレーシア）

- ・ 研修費用は保護者負担で次年度以降も実施
- ・ 普通科からも参加希望者を募る。

海外研修への自主参加

- ・ トヨタ自動車九州、宮若市、宗像市グローバル人材育成事業
「カナダ研修」
- ・ 西日本新聞主催「ハチドリ隊」ベトナム・マングローブ植林派遣事業
- ・ 古岡奨学会の「カナダ研修」

ご清聴ありがとうございました。